

令和4年度 校内研究の構想図

学校教育目標
 「夢や目標をもち 学び合い つながり合い 主体的に未来を拓く児童の育成」
 ～かしこく やさしく たくましく～

研究主題
 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」
 —各教科等における見方・考え方を働かせて—

研究仮説
【仮説1】身に付けさせたい資質・能力を明確にし、「やってみたい」「考えてみたい」という学習課題を設定するとともに、振り返りを工夫し児童の学び（自己の変容）を自覚させ、日常生活や他教科等の学習につなげていくことで主体的に取り組むようになるだろう。
【仮説2】系統性を踏まえた学び方を的確に指導し、問題解決の場面をつくり、自分の考えとその理由や根拠を話し合わせて、友達の考えと比較させたり、図表、言葉に関連付けたりする等、対話的な学びを通して自分の考えを広げ深めることができるようになるだろう。
【仮説3】対話的な学びや「見方・考え方」を働かせた学びを通して、多様な考えや質の高い考えにふれ、自分の考えが変容したことに気付かせることで、学びの深まりを実感することができるようになるだろう。

学習環境の工夫・充実

他教科への広がり・他教科での活用

研究内容
 ◇身に付けさせたい目指す資質・能力の明確化と例えば国語科においては有効な言語活動及び算数科においては数学的活動の設定等、評価規準・評価方法の明確化
 ◇各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習過程の研究
 ◇「授業改革ハンドブック」にもとにした授業の質的改善の研究
 ◇国語科・算数科で付けたい力と他教科等との関連を図るカリキュラム・マネジメント表の活用

資質・能力を身に付けるために有効な学習活動を通して、学び合い
 つながり合いながら主体的に未来を拓く児童を育成する。

<授業における方策>

- ◆「言葉」の意味や動き、使い方に目を向け、意識化を図る
- ◆数量や図形、それらの関係などについての概念等に着目させる
- ◆思考を深める発問の工夫 ◆明確な目的のある対話を仕組む
- ◆情報と情報の関係や情報を整理する場面を設定する ◆学びを自覚させる振り返り

■家庭学習の習慣化
 * 自主学習の仕方の指導
 * 家庭学習カードの活用
 ■読書活動の充実
 * 学校図書館の環境整備
 * 必読図書の奨励・関連図書

■各学年の指導事項の系統化
 * マトリクス表の活用（国語科）
 ■OJTによる指導力向上
 * 見て見て月間公開授業
 * 授業構想シートの活用
 * ノート交流・板書交流

組織的なOJT